

追悼文



瀬川道治先生をしのぶ

総合科学部 根 平 邦 人

瀬川道治先生は、胃がんのため去る2月20日逝去されました。大正15年11月生まれですので、ちょうど「昭和」を全うされた62年余の生涯でした。

先生は、昭和26年広島文理科大学生物学科をご卒業。昭和27年広島大学工学部、理学部の助手を経て、41年教養部講師、42年助教授、46年には教授に就任されました。昭和49年からは総合科学部教授として研究、教育にあたられましたが、昭和55年6月から2期4年間にわたっては学生部長の要職にありました。

先生のご専門は植物の細胞遺伝学です。なかでも蘚苔類における構造的性染色体の発見は際立ったお仕事で、この研究は学界でも高く評価されているものです。ここ10年くらいはとくに環境変異原の染色体への影響についてのご研究に力を注が

れていました。教育面では、たとえば総合科目「人間と環境」や「創造とは何か」にとりわけ熱心に取り組んでおられたのは総合科学部の理念にそった授業だと確信しておられたからでしょう。学生部長として事を処する仕方には定評がありました。これは先生の頭の切れ味の良さを物語っています。

一昨年の春だったでしょうか。先生は雌と雄の株を揃えてキュウイの苗を私に届けて下さいました。この植物は今でも私の家の庭先ですくすくと育っています。これが形見になろうとは。

先生は私にとっては学問上の師であると同時に、お酒を楽しくたしなむ術を教えて下さいました。寂しく悲しい思いです。瀬川先生、安らかに眠って下さい。

